

科目名	① 職務の理解
時間数	6 時間
指導目標 (ねらい)	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。また、介護職が働く現場や仕事の内容をできる限り、具体的に理解できるようになる。
指導の視点	<ul style="list-style-type: none"><li>・研修課程全体の構成と各研修科目相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率的・効果的に学習できるような素地の形成を促す。</li><li>・介護職が働く現場や仕事内容をできる限り具体的に理解させる。</li></ul>
項目(単元名)	講義内容
介護職の仕事と働く現場の理解	<p>①多様なサービスと介護職の仕事</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・介護と介護保険制度の意義</li><li>・多様なサービスと介護職の仕事内容・働く現場</li><li>・ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携</li></ul> <p>②キャリアパスの資格取得要件</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・介護職の資格体系の見直し</li><li>・キャリアパスの全体像</li></ul>

科目名	② 介護における尊厳の保持・自立支援
時間数	9 時間
指導目標 (ねらい)	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職でありことを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解する。
指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な事例を複数示し、利用者及びその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを導く。</li> <li>・残存能力を効果的に活用しながらの自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解。</li> <li>・利用者の尊厳を著しく傷つける言動及びその理由について考え、尊厳という概念に対する気づきを導く。</li> <li>・虐待を受けている高齢者への対応方法、高齢者虐待に対する理解。</li> </ul>
項目(単元名)	講義内容要点等
人権と尊厳を支える介護	<p>①人権と尊厳の保持</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人としての尊厳</li> <li>・権利擁護</li> <li>・個人の尊厳と価値</li> <li>・社会的役割の実感</li> </ul> <p>②ICF(国際生活機能分類)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護分野におけるICF</li> </ul> <p>③QOL(生活の質)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の質の捉え方</li> <li>・生活の質と人間の尊厳</li> </ul> <p>④ノーマライゼーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノーマライゼーションの理念と実際</li> <li>・ノーマライゼーションの歴史</li> </ul> <p>⑤虐待防止・身体拘束禁止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待防止法</li> <li>・身体拘束禁止</li> </ul> <p>⑥個人の権利を守る制度の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報保護法</li> </ul>
自立に向けた介護	<p>①自立支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職として求められる「自立」と「自律」</li> <li>・自立支援のための介護方法</li> </ul> <p>②介護予防</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防と健康寿命</li> <li>・介護保険と介護予防</li> <li>・介護予防と社会的入院</li> </ul>

科目名	③ 介護の基本
時間数	6 時間
指導目標 (ねらい)	介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。また介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができるようになる。
指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可能な限り具体例を示し、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。</li> <li>・介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、サービス提供責任者、医療職、他職種と連携することの重要性を促す。</li> </ul>
項目(単元名)	講義内容要点等
介護職の役割、専門性と多職種との連携	<p>①介護環境の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問介護サービス</li> <li>・施設介護サービス</li> <li>・地域包括ケア</li> </ul> <p>②介護の専門性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重度化防止、遅延化の視点</li> <li>・利用者主体の支援姿勢、自立した生活を支援するための援助</li> <li>・根拠のある介護</li> <li>・事業所内チーム、多職種から成るチーム</li> <li>・医行為と医療的ケア</li> </ul> <p>③介護に関わる職種</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームにおける役割分担</li> <li>・介護に関わる職種の機能と役割</li> </ul>
介護職の職業倫理	<p>①介護職の職業倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法令遵守</li> <li>・利用者の個人の尊厳と介入</li> <li>・日本介護福祉士会の倫理綱領</li> </ul>
介護における安全の確保とリスクマネジメント	<p>①介護における安全の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護における安全確保の重要性</li> <li>・リスクマネジメント</li> <li>・リスクマネジメントにおける重要な要素</li> </ul> <p>②事故予防、安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危険予知と事故予防</li> <li>・事故発生時の対応</li> <li>・具体的事例</li> </ul> <p>③緊急時に必要な知識と対応方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・想定される事故</li> <li>・応急手当(観察・対応の流れ)</li> <li>・応急手当の実際</li> <li>・一次救命処置の実際</li> </ul> <p>④感染症対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の理解</li> <li>・注意すべき感染症とその対応</li> <li>・感染症の予防と対策</li> </ul>
介護職の安全	<p>①介護職の心身の健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職の健康管理</li> <li>・介護職に起こりやすい健康障害</li> <li>・腰痛予防</li> <li>・感染症の予防</li> <li>・ストレスマネジメント</li> </ul>

科目名	④ 介護・福祉サービスの理解と医療との連携
時間数	9 時間
指導目標 (ねらい)	介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できるようになる。
指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度・障害者総合支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。</li> <li>・利用者の生活を中心に考える視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害者総合支援制度、その他制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスの理解を促す。</li> </ul>
項目(単元名)	講義内容要点等
介護保険制度等	<p>①介護保険制度創設の背景と目的・動向</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的背景</li> <li>・介護保険法の成立</li> <li>・介護保険制度の導入後の動向</li> </ul> <p>②介護保険制度の仕組みと基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保険制度としての基本的仕組み</li> <li>・サービス利用の流れ</li> <li>・介護保険サービス(介護給付・予防給付)</li> <li>・地域支援事業・市町村特別給付・地域包括支援センター</li> </ul> <p>③介護保険制度の財源、組織、団体の機能と役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制度運営の役割分担</li> <li>・介護保険事業計画</li> <li>・介護サービス事業所の質の確保</li> <li>・苦情への対応</li> <li>・情報公表・第三者評価</li> </ul> <p>④医療保険制度の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療保険の種類</li> <li>・医療の給付の内容</li> </ul> <p>⑤年金保険制度の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年金保険の種類</li> <li>・年金の給付の内容</li> </ul>
医療との連携とリハビリテーション	<p>①高齢者の服薬と留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤の服用とその観察</li> <li>・薬剤の副作用</li> <li>・薬の種類に合わせた与薬の方法</li> <li>・医師や薬剤師との連携についての知識、管理</li> </ul> <p>②経管栄養、吸引、吸入、浣腸など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療処置の目的と方法</li> <li>・医療処置を行っている人の介護</li> </ul> <p>③健康チェック</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康チェックに必要な身体観察の視点と観察技術</li> <li>・全身観察</li> <li>・体温・脈拍・血圧・呼吸の測定による観察の方法</li> <li>・他職種との連携のための観察やケアから得た情報の提供</li> </ul> <p>④訪問看護</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護事業所</li> <li>・訪問看護と訪問介護の連携</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"><li>⑤リハビリテーション医療の意義と役割<ul style="list-style-type: none"><li>・リハビリテーション</li><li>・リハビリテーション医療の流れ</li><li>・リハビリテーション医療と介護の連携</li></ul></li><li>⑥リハビリテーション医療の課程<ul style="list-style-type: none"><li>・急性期リハビリテーション</li><li>・回復期リハビリテーション</li><li>・維持期リハビリテーション</li></ul></li><li>⑦訪問・通所・地域リハビリテーション<ul style="list-style-type: none"><li>・訪問リハビリテーション</li><li>・通所リハビリテーション</li><li>・地域リハビリテーション</li></ul></li></ul>
障害者総合支援制度とその他の制度	<ul style="list-style-type: none"><li>①制度創設の理念・背景と目的<ul style="list-style-type: none"><li>・わが国の法律で定める障がいの捉え方</li><li>・障害者（児）福祉の背景と動向</li><li>・障害者雇用と就労状況</li></ul></li><li>②制度の仕組みと基礎的理解<ul style="list-style-type: none"><li>・障害福祉サービスの仕組み</li><li>・所得の保障</li></ul></li><li>③個人の権利を守る制度の概要<ul style="list-style-type: none"><li>・基本理念</li><li>・制度の概要や目的</li></ul></li></ul>

<p><b>科目名</b></p>	<p><b>⑤ 介護におけるコミュニケーション技術</b></p>
<p><b>時間数</b></p>	<p><b>6 時間</b></p>
<p><b>指導目標 (ねらい)</b></p>	<p>高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきではない）行動例を理解する。</p>
<p><b>指導の視点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。</li> <li>・チームケアにおける専門職種でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。</li> </ul>
<p><b>項目（单元名）</b></p>	<p><b>講義内容要点等</b></p>
<p>介護におけるコミュニケーション</p>	<p>①コミュニケーションの意義と目的、役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの基本要素</li> <li>・コミュニケーションの目的と方法</li> <li>・相手のコミュニケーション能力への理解と配慮</li> </ul> <p>②コミュニケーションの手段と技法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語的コミュニケーション</li> <li>・非言語的コミュニケーション</li> </ul> <p>③利用者・家族への対応の基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カウンセリングマインド</li> <li>・良いコミュニケーションと悪いコミュニケーション</li> </ul> <p>④利用者・家族への対応の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者、家族の思いを把握するコミュニケーション</li> <li>・利用者との信頼関係を結ぶコミュニケーション</li> <li>・家族へのいたわりと励まし</li> </ul> <p>⑤利用者の状況・状態に応じた対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚障害者</li> <li>・視覚障害者</li> <li>・盲ろう者</li> <li>・失語症に応じたコミュニケーション</li> <li>・構音障害に応じたコミュニケーション</li> <li>・認知症に応じたコミュニケーション</li> <li>・高次機能障害に応じたコミュニケーション</li> </ul>
<p>介護におけるチームのコミュニケーション</p>	<p>①記録による情報の共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記録の意義、目的</li> <li>・記録の書類</li> <li>・記録の書き方</li> <li>・記録に関わる法令</li> </ul> <p>②報告・連絡・相談</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告、連絡、相談の意義・目的</li> <li>・報告、連絡、相談の方法</li> </ul> <p>③コミュニケーションを促す環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の種類と会議に臨む姿勢</li> <li>・ケアカンファレンス</li> <li>・サービス担当者会議</li> <li>・事例研究・事例報告</li> </ul>

科目名	⑥ 老化の理解
時間数	6 時間
指導目標 (ねらい)	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。
指導の視点	高齢者に多い心身の変化、病気の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面の知識を身に付けることの必要性への気づきを促す。
項目(単元名)	講義内容
老化に伴うところとからだの変化と日常	①老年期の発達と心身の変化の特徴 ・加齢と老化の概念 ・人格と尊厳 ・老いの価値 ・性役割と老年期の性 ②心身の機能の変化と日常生活への影響 ・老化に伴う心身の機能の変化 ・身体的変化 ・心理的变化 ③高齢者の疾病(老年症候群)と生活上の留意点(外科系) ・老年症候群とは ・老年症候群の早期発見 ・運動器の機能向上 ・口腔機能の改善 ・低栄養の改善 ・認知機能を高める ・尿失禁の改善
高齢者と健康	①高齢者に多い病気と生活上の留意点(内科系) ・生活習慣病 ・脳神経系の病気 ・循環器系の病気 ・呼吸器の病気 ・肝臓、胆道系の病気 ・腎・泌尿器の病気 ・骨や関節の病気 ・精神の病気 ・眼と耳の病気 ・皮膚の病気

<p><b>科目名</b></p>	<p>⑦ <b>認知症の理解</b></p>
<p><b>時間数</b></p>	<p><b>6 時間</b></p>
<p><b>指導目標</b> (ねらい)</p>	<p>介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解する。</p>
<p><b>指導の視点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症の利用者心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるように工夫するとともに、介護職において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。</li> <li>・ 複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則についての理解を促す。</li> </ul>
<p><b>項目 (単元名)</b></p>	<p><b>講義内容</b></p>
<p>認知症を取り巻く状況</p> <p>医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理</p> <p>認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活</p> <p>家族への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①認知症ケアの理念             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症ケアの理念</li> <li>・ 認知症ケアの理念パーソンセンタードケア</li> <li>・ 認知症ケアの視点</li> </ul> </li> <li>①認知症の概念と原因疾患・病態             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症の概念</li> <li>・ 認知症の中核症状</li> <li>・ 認知症の原因疾患の診断</li> <li>・ 認知症の治療</li> <li>・ 認知症と間違えられやすい症状</li> <li>・ 認知症についての最近の話題</li> </ul> </li> <li>②原因疾患別ケアのポイントと健康管理             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長期にわたる食生活の偏り</li> <li>・ 脱水</li> <li>・ 便秘</li> <li>・ 低栄養</li> <li>・ 運動量の低下</li> <li>・ 廃用症候群 (生活不活発病)</li> <li>・ 口腔ケア</li> </ul> </li> <li>①生活障害、心理、行動の特徴             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症の人の心の内</li> <li>・ 周辺症状 (B P S D) にみる認知症の人の思い</li> <li>・ 原因疾患による認知症症状の違い</li> </ul> </li> <li>②利用者への対応             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ケアのあり方と周辺症状</li> <li>・ 認知症症状の背景を読み解く</li> <li>・ 非薬物療法</li> </ul> </li> <li>①家族の関わり方             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症の受容課程での援助</li> <li>・ 介護負担の軽減 (レスパイトケア)</li> </ul> </li> </ul>



科目名	⑧ 障害の理解
時間数	3 時間
指導目標 (ねらい)	障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解する。
指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護において障害の概念とICFを理解しておくことの必要性の理解を促す。</li> <li>・高齢者の介護との違いを念頭に置きながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。</li> </ul>
項目 (単元名)	講義内容
<p>障害の基礎的知識</p> <p>障害の医学的側面の基礎知識</p>	<p>①障害の概念とICF (障害者福祉の基本理念)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者福祉の基本理念</li> <li>・障害の概念と国際生活機能分類 (ICF)</li> </ul> <p>②肢体不自由 (身体障害)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体不自由の代表的な病気とその障害像</li> <li>・生活援助のポイント</li> <li>・廃用症候群 (生活不活発病)</li> <li>・障害受容のプロセスを踏まえた対応</li> </ul> <p>③内部障害</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内部障害の代表的な疾患・障がい</li> <li>・生活援助のポイント</li> <li>・その他の疾患・障害</li> </ul> <p>④視覚障害・聴覚障害</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害</li> <li>・聴覚障害</li> <li>・平衡機能障害</li> </ul> <p>⑤音声・言語・咀嚼機能障害</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・失語症</li> <li>・構音障害、発声障害</li> <li>・咀嚼、嚥下機能障害</li> </ul> <p>⑥精神障害</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神医学的な分類図式</li> <li>・分類図式を理解する際の留意点</li> </ul> <p>⑦統合失調症</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統合失調症の3つの類型</li> <li>・類型それぞれの中心となる症状、経過</li> </ul> <p>⑧躁うつ病等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気分障害の類型</li> <li>・高齢の患者さんの初発症状、経過の特徴</li> </ul> <p>⑨神経病性障害 (神経症)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神経症の類型</li> <li>・一般的な対応</li> </ul> <p>⑩アルコール依存症</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アルコール依存症の定義</li> <li>・アルコール依存症に伴う身体的、精神的、社会的問題</li> </ul> <p>⑩知的障害</p>

	<ul style="list-style-type: none"><li>・知的障害の特徴</li><li>・日常生活を支援するポイント</li><li>⑪発達障害<ul style="list-style-type: none"><li>・発達障害の特徴</li><li>・日常生活を支援するポイント</li></ul></li><li>⑫ダウン症<ul style="list-style-type: none"><li>・ダウン症の特徴</li><li>・日常生活を支援するポイント</li></ul></li><li>⑬高次脳機能障害<ul style="list-style-type: none"><li>・原因疾患</li><li>・症状</li><li>・診断基準</li><li>・評価方法</li><li>・対応方法</li></ul></li></ul>
家族の心理の理解、かかわり支援の理解	<ul style="list-style-type: none"><li>①家族の心理・かかわり支援<ul style="list-style-type: none"><li>・介護する家族の遭遇するストレス</li><li>・障害の理解と受容支援</li><li>・介護負担の軽減</li></ul></li></ul>

<p><b>科目名</b></p>	<p>⑨ <b>こころとからだのしくみと生活支援技術</b></p>
<p><b>時間数</b></p>	<p><b>11 時間</b></p>
<p><b>指導目標</b> (ねらい)</p>	<p>介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できるようになる。また尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等で生活を支える介護技術や知識を習得する</p>
<p><b>指導の視点</b></p>	<p>・介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識を、介護の流れを示しながら、理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す。</p>
<p><b>項目(単元名)</b></p>	<p><b>講義内容要点等</b></p>
<p>介護の基本的な考え方</p>	<p>①介護の基本的な考え方          ・理念に基づいた介護          ・法的根拠に基づく介護</p>
<p>介護に関するこころのしくみの基礎的理解</p>	<p>①学習と記憶に関する基礎知識          ・学習の諸理論          ・記憶のメカニズム          ・海馬と扁桃体          ②感情と意欲に関する基礎知識          ・感情とそれに類似する概念          ・思考と認知の概念          ・体力と意欲(やる気)の関係          ③自己概念と生きがい          ・基本的欲求と自己有用感          ・障害を持った人が今できていることを認める          ・精神的な拠りどころの必要性          ・生きがいと意欲          ④老化や障害を受け入れる適応行動と阻害要因          ・人間としての存在価値の喪失感          ・障害受容のプロセス          ・自我の再生支援          ・行動変容支援と動機づけ</p>
<p>介護に関するからだのしくみの基礎的理解</p>	<p>①健康チェックとバイタルサイン          ・基本的な健康チェックのしかた          ・バイタルサインのとり方          ・正常値とその評価          ②骨・関節・筋肉に関する基礎知識          ・骨          ・関節          ・筋肉          ③中枢神経系と体性神経に関する基礎知識          ・神経系の分類と機能          ④自律神経と内部器官に関する基礎知識          ・血液と免疫系          ・心血管系          ・呼吸器系          ・消化器系          ・腎、泌尿器系          ・内分泌系          ・生殖器          ・皮膚</p>

科目名	⑨ 心とからだのしくみと生活支援技術
時間数	5 時間
指導目標 (ねらい)	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できるようになる。また尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等で生活を支える介護技術や知識を習得する
項目(単元名)	講義内容要点等
生活と支援技術	<p>①生活と家事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の暮らし(生活の捉え方)</li> <li>・衣食住の環境整備</li> </ul> <p>②家事援助の基礎知識と生活支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別性の尊重、個人の価値観、生活歴</li> <li>・信頼関係の形成</li> <li>・自立支援</li> </ul> <p>③家事援助の方法(調理・洗濯・掃除等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調理の支援</li> <li>・洗濯、衣服管理の支援</li> <li>・掃除、ゴミ捨ての支援</li> <li>・買い物の支援</li> <li>・裁縫</li> </ul> <p>④ベッドメイキングの必要な基礎知識と方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベッドの機能性、種類、特徴、選び方</li> <li>・布団の機能性</li> <li>・感染予防</li> <li>・ベッドメイキングの必要性、方法</li> </ul>

科目名	⑨ ことろとからだのしくみと生活支援技術
時間数	5 時間
指導目標 (ねらい)	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できるようになる。また尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等で生活を支える介護技術や知識を習得する
項目(単元名)	講義内容要点等
快適な居住環境整備と介護	<p>①快適な居住環境に関する基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人と住まい</li> <li>・人と住まい高齢者に必要な住まいの性能</li> </ul> <p>②介護保険による住宅改修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅改修サービスの目的</li> <li>・介護保険による住宅改修の概要</li> </ul> <p>③福祉用具に関する基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉用具の概念</li> <li>・代表的な福祉用具の理解</li> <li>・介護保険制度上の福祉用具貸与・購入費の支給</li> </ul>

科目名	⑨ ころとからだのしくみと生活支援技術
時間数	6 時間
指導目標 (ねらい)	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できるようになる。また尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等で生活を支える介護技術や知識を習得する
項目 (単元名)	講義内容要点等
整容に関するころとからだのしくみと自立に向けた介護	①整容に関する基礎知識 ・整容行動とは ・具体的な整容行動 (爪切り、口腔ケア、衣服の着脱、整髪、洗面、化粧) ②整容の支援技術 ・爪切り ・口腔ケア ・身体状況に合わせた衣服の着脱

科目名	⑨ ころとからだのしくみと生活支援技術
時間数	6 時間
指導目標 (ねらい)	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できるようになる。また尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等で生活を支える介護技術や知識を習得する
項目(単元名)	講義内容要点等
移動に関するころとからだのしくみと自立に向けた介護	<p>①移動・移乗に関する基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動・移乗介助の意義・目的</li> <li>・残存能力の活用・自立支援</li> <li>・利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法の基礎であるボディメカニクス</li> </ul> <p>②移動・移乗のための用具と活用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動、移乗に関する福祉用具の種類</li> <li>・各福祉用具の特徴</li> <li>・福祉用具の適切な活用方法</li> </ul> <p>③負担の少ない移動・移乗と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の低下が及ぼすころとからだへの影響</li> <li>・各介助(体位交換、移乗、歩行、車いす)の具体的な方法</li> </ul> <p>④移動と社会参加の留意点と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の活性化</li> <li>・外出の介助</li> <li>・社会参加の意味</li> </ul>

<p><b>科目名</b></p>	<p>⑨ <b>こころとからだのしくみと生活支援技術</b></p>
<p><b>時間数</b></p>	<p><b>6 時間</b></p>
<p><b>指導目標</b> (ねらい)</p>	<p>介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できるようになる。また尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等で生活を支える介護技術や知識を習得する</p>
<p><b>項目 (単元名)</b></p>	<p><b>講義内容要点等</b></p>
<p>食事に関するこころとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>①食事に関する基礎知識          ・ 私たちの生活における食事の意味          ・ 食事摂取のしくみ          ・ 加齢や障害に伴うさまざまな症状          ②食事環境の整備と用具の活用方法          ・ 食事に関連した観察のポイント          ・ 適切な食事環境          ③楽しい食事を阻害する要因と支援方法          ・ さまざまな状態増に合わせた介護方法          ・ 誤嚥した場合の対応          ・ 食事介助における観察ポイントと記録          ④食事と社会参加の留意点と支援          ・ 食事介護の社会的側面          ・ 口腔機能</p>



<p><b>科目名</b></p>	<p>⑨ <b>こころとからだのしくみと生活支援技術</b></p>
<p><b>時間数</b></p>	<p><b>6 時間</b></p>
<p><b>指導目標 (ねらい)</b></p>	<p>介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できるようになる。また尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等で生活を支える介護技術や知識を習得する</p>
<p><b>項目 (単元名)</b></p>	<p><b>講義内容要点等</b></p>
<p>入浴と清潔保持に関するこころとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>①入浴と清潔保持に関する基礎知識(羞恥心や遠慮への配慮・体調の確認等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴の介護</li> <li>・清拭の介護</li> </ul> <p>②入浴と整容の用具の活用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シャワー浴、一般浴(片マヒ利用者)の介助</li> <li>・清拭の介助(身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法)</li> <li>・手浴、足浴の介助</li> <li>・洗髪、髭剃りの介助</li> </ul> <p>③楽しい入浴を阻害する要因と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴に際したリスクと対応</li> <li>・認知症高齢者の入浴に際したリスクと対応</li> </ul>

<p><b>科目名</b></p>	<p>⑨ <b>こころとからだのしくみと生活支援技術</b></p>
<p><b>時間数</b></p>	<p><b>6 時間</b></p>
<p><b>指導目標</b> (ねらい)</p>	<p>介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できるようになる。また尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等で生活を支える介護技術や知識を習得する</p>
<p><b>項目 (単元名)</b></p>	<p><b>講義内容要点等</b></p>
<p>排泄に関するこころとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>①排泄に関する基礎知識          ・排泄の意義          ・排泄のメカニズム          ・排泄障がい          ・失禁の種類          ②排泄環境の整備と用具の活用方法          ・排泄しやすい環境整備          ・排泄用具の種類と特徴          ・オムツの弊害          ③爽快な排泄を阻害する要因と支援方法          ・排泄障がい日常生活に及ぼす影響          ・排泄を支援する際の基本原則          ・排泄支援の実際</p>

<p><b>科目名</b></p>	<p>⑨ <b>こころとからだのしくみと生活支援技術</b></p>
<p><b>時間数</b></p>	<p><b>6 時間</b></p>
<p>指導目標 (ねらい)</p>	<p>介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できるようになる。また尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等で生活を支える介護技術や知識を習得する</p>
<p>項目 (単元名)</p>	<p>講義内容要点等</p>
<p>睡眠に関するこころとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>①睡眠に関する基礎知識          ・睡眠の基礎知識          ・睡眠の役割          ・睡眠障害の種類          ②睡眠環境と用具の活用方法          ・寝室の環境整備          ・寝具の種類と選び方          ・こころよく眠るための生活          ③快い睡眠を阻害する要因と支援方法          ・睡眠を阻害する要因          ・心身の苦痛の軽減          ・安楽な体位          ・褥瘡予防</p>

<p><b>科目名</b></p>	<p>⑨ <b>こころとからだのしくみと生活支援技術</b></p>
<p><b>時間数</b></p>	<p><b>6 時間</b></p>
<p><b>指導目標 (ねらい)</b></p>	<p>介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できるようになる。また尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等で生活を支える介護技術や知識を習得する</p>
<p><b>項目 (単元名)</b></p>	<p><b>講義内容要点等</b></p>
<p>死にゆく人に関するこころとからだのしくみと終末期介護</p>	<p>①終末期に関する基礎知識          ・終末期ケアとは          ・住み慣れた場所で最期を迎えるための終末期ケア          ②生から死への過程とこころの理解          ・高齢者の死に至るパターンとケアの特徴          ・終末期の身体的状態と苦痛を和らげるケア          ・終末期の心理状態          ③苦痛の少ない死への支援と他職種との連携          ・ケアプランに基づいた介護          ・介護従事者の役割と他職種との連携          ・全身状態の観察          ・誤嚥の防止と嚥下状態の観察          ・心理状態の観察          ・介護従事者の基本的態度</p>

科目名	⑨ 心とからだのしくみと生活支援技術
時間数	6 時間
指導目標 (ねらい)	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できるようになる。また尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等で生活を支える介護技術や知識を習得する
項目(単元名)	講義内容要点等
介護過程の基礎的理解	①介護課程の基礎的理解 ・科学的思考と介護課程 ・介護課程の展開に必要な構成要素 ・グループワーク演習

<p><b>科目名</b></p>	<p>⑨ <b>こころとからだのしくみと生活支援技術</b></p>
<p><b>時間数</b></p>	<p><b>6 時間</b></p>
<p>指導目標 (ねらい)</p>	<p>今までに学習した「こころとからだのしくみ」「自立に向けた支援」の知識を根拠として、利用者の尊厳の保持と自立支援の視点での「介護過程」の展開ができるための、基礎的な考え方を理解する。</p>
<p>指導の指針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の中心となる「尊厳の保持」と「自立支援」を確認する。その中で、介護における「自立の」意味を再確認する。</li> <li>・介護課程の最終的な目的は、利用者の自己実現であることを確認する。</li> <li>・客観的で根拠を持った記録の必要性を理解し、フォーマットに基づき、事例展開で意識的に取り組めるよう促す。</li> <li>・グループごとにテキストの事例展開を参考として、事例の展開ができる。</li> </ul>
<p>項目(単元名)</p>	<p>講義内容要点等</p>
<p>総合生活支援技術演習</p>	<p>①事例による展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク</li> <li>・わかりやすい記録</li> </ul>

科目名	⑨ 振り返り
時間数	4 時間
指導目標 (ねらい)	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。また、様々な福祉施設を見学し、より理解を深める。
指導の指針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅、施設のいずれの場合であっても、「利用者の生活の拠点に共に居る」という意識、その状態における模擬演習（身だしなみ、言葉遣い、反対の態度等の礼節含む）を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解を促す。</li> <li>・研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講生自身に表出・言語化させた上で、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。</li> <li>・修了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身に付けるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるように促す。</li> </ul>
項目（単元名）	講義内容要点等
事業所等におけるOJT・Off-JT	<p>①事業所等におけるOJT・Off-JT</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の理解と現任者研修</li> <li>・介護現場で求められるOJT</li> <li>・介護職のキャリアにつながるOJT</li> <li>・OJT・Off-JTの実際</li> </ul>
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>①研修を通じて学んだこと</li> <li>②今後継続して学ぶこと</li> <li>③根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態増に応じた介護と介護過程、身体、心理、社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等）</li> <li>④継続的な学び</li> <li>⑤研修修了後における継続的な研修について</li> <li>⑥更なる資格取得</li> <li>⑦チームケアに携わる他職種連携の重要性</li> <li>⑧グループワーク</li> </ul>